

ひと・緑・風 明日につなぐ NO.37

tomorrow



高蔵寺ニュータウン・ハナモモ桃源郷の会
代表：寺島靖夫
事務局 春日井市押沢台 6-11-13
TEL/FAX 0568-91-8364
<https://www.hanamomonokai.com/>

コロナ禍、これからの活動について

今年度の育樹祭は中止します！



昨年、突如発症した新型コロナウイルス感染は瞬間に全世界へと拡大しあらゆる分野に甚大な悪影響を与えています。とりわけ、当会のような市民活動やボランティア活動は致命的打撃を受け、主要な活動、イベントはことごとく中止や延期を余儀なくされています。本来ならば、年頭に当たって、今年の抱負や活動の具体的展望について発表すべきところですが、残念ながら今はそのような状況にはありません。

思いもかけず中止に追い込まれた昨年の「第4回ハナモモ育樹祭」、今年こそはと思っていましたが、コロナ感染はいつに収束のメドが立たず、大変残念ではありますが、「今年度の育樹祭は中止する」ことに決定しました。多くの皆さんが楽しみにされていただけに育樹祭を中止せざるを得ないこと、申し訳なく思っています。4月3日に、これまでの作業日の拡大版として花見がてら、育ててきた苗木の総点検をすることにします。苗木の植栽・一部植え替え・剪定・全体的なバランス調整などをします。

しかし、全般的にはハナモモの若木はコロナ騒動に振り回されることもなく、日一日と成長を続けています。4年前の「第1回ハナモモ育樹祭」で植えた苗木は厳しい環境にもめげず、今年の春には「お花見」が出来るくらいの花を付けそうで、期待が大きく膨らみます。これからは今まで植えた苗木が次々と成長し、花の輪が少しずつ広がり、楽しみも順次大きくなります。

来年度、コロナが収束して今までのような日常が戻ってきたら、「ハナモモ育樹祭」を今まで以上に内容の濃い育樹祭にしようと思っています。先日の養楽荘さんとの打ち合わせでは開催日は来年の3月12日(土)を目標にすることで合意しました。育樹祭には養楽荘のスタッフの皆さんによる軽食を準備いただけるのとことで大変期待しています。

年ごとに増す喜びを満たすため作業などの地道な活動がより求められます。今年もコロナを避けつつ頑張りましょう。

(代表 寺島靖夫)



コロナは地球を救う

寺島靖夫

中国が発生源といわれる新型コロナウイルスは瞬間に全世界に感染拡大し、今や人類防衛軍とコロナとの戦争の感がある。敵の戦略は巧みで弱点ばかりを攻め、人類は防戦一方である。政府は声を大にして、100年前のスペイン風邪の時と同じ「自宅待機」という古典的防御策を呼び掛けているが、若年層は見向きもしない。米国ではマスクをしない層がかなりいるといわれ、バイデン新大統領はマスク着用義務の大統領令を出さざるを得ない状況である。ここに至り、人類はコロナと人類同士の相打ちという両面から責め立てられている。

コロナは日常生活を根底からひっくり返して見せた。社会的な不条理な事柄が白日の下にさらけ出され、弱者のあまりにも悲惨な姿があらわになった。コロナは今までの一見整合性が取れていると思われた生活が実はきわめて危うい薄氷の上に築かれていたことを暴いて見せた。

今回のような異変が生ずると人類はたちまち制御不可能な状況に陥ってしまう。コロナは人類を追い詰めてはいるが、同時に異常なまでにカオス化した世界を徹底的に検証するチャンスを与えてくれたと考えると、コロナの出現は人類を救う千載一遇の機会ともいえる。

ワクチン接種という強力な防止策を一日も早く実施したいとの望みは生存本能に近いものがある。しかし、収束された暁には今回垣間見た、社会の惨状に再び蓋をして、コロナは退治されたと宣言し、また元の世界に戻る結末を迎えるならば、地球号は愚かにも再び制御不能な旅に飛び立つ。77億の人類を乗せて。

三菱 UFJ 銀行さんからうれしい協働のお誘い

プロジェクトチームリーダー 糟谷理恵子

三菱 UFJ 銀行春日井支店から最初に電話を頂いたのは昨年 10 月末。銀行として市民活動に参加協力するようにと上方部から指示があり、その対象を探る中で多くの人が親しめる環境づくりに取り組んでいる当会の HP が目に留まったとのことでした。

11 月初旬に寺島代表と糟谷で支店を訪問しました。担当は A さんと O さんという 20 代の女性行員。★これは単年度事業であり来年度以降は未定 ★2 月までに実施する ★具体的には市内 3 支店から行員を集め、育樹祭に参加したいと意欲的な説明を受けました。残念ながらこの時点で育樹祭の開催中止はほぼ決定していましたが、それでもせっかくの協働のチャンスです。鉢植えで育てているハナモモ幼苗のうち数本を植樹して頂こうと 1 月末の決行を目指し、計画を立てていました。

あいにく非常事態宣言下では断念せざるを得ませんでした。が、「来年度でも植樹の際は声をかけて欲しい」と。また急に転勤が決まった A さんは「個人的に参加したいから連絡が欲しい」とまで言って下さいました。特別協賛金も 3 口 150,000 円頂戴し、ありがたさが身に沁みます。

昨年度の環境省からの受賞、今回の企業からの打診。地道な活動に加え HP や会報やブログでの発信は、多くの人を巻き込む契機になっていると感じます。コロナ禍が去ったら、今以上に産官学民の協働を模索したいものです。



2018 年に「(公財) 三菱 UFJ 環境財団」の助成金で植えたハナモモ順調に育っています。



写真で振り返る 2020 年

昨年の活動で特筆できるのは、環境省主催の企画コンテストの受賞です。頂いた「日本アロマ環境協会賞」の副賞は、ハナモモを中心に香りのする樹木やハーブなど。それらを「養楽荘」の敷地斜面に、市民の皆さんやサポーターさんと共に植栽。年間を通し、水やりや施肥などの管理をしました。(林明代)



- ①・② 3 月 14 日の育樹祭はコロナで中止をしたものの、ハナモモの植栽だけは市民の皆さんにも参加していただき約 60 本の苗木を植えました。雨の中、子どもさん連れで参加して下さったご家族も。
- ③ 活着するまでは水やりが欠かせません。傾斜のきつい場所だけでもと、経験のある会員の手で穴を開けた塩ビ管を張り巡らし灌水設備を手作りしました。それでも全体への水やりには大変な労力が・・・。
- ④ ブルーシートを敷いて、造園屋さんから頂いた馬糞の堆肥を上部から降ろす作業。これは会員の知恵。⑤ 芳香を放つニオイバンマツリ。色合いも綺麗。
- ⑥・⑦ わずかですがブルーベリーと柚子は収穫できました。
- ⑧ 4 月 5 日、サポーターさんと共に、果樹やハーブなど 140 本を植えました。
- ⑨ マスクをはずして記念撮影。楽しく作業ができ、達成感でみんな笑顔。